



# 総合資料館だより

2003.1.1 No.134



## 伏見人形「未」<sup>ひつじ</sup>

古くから人々の生活の周りには、多くの動物がいました。あるものは親しくもあり、あるものは恐ろしい存在でもあったことでしょう。

郷土玩具の動物を型どった人形は数多く作られてきました。ウマ、イヌ、ウシ、サル、トリなど全国各地にユニークな作例があり、人形としてもなじみ深いものです。京都・伏見稲荷大社の近くで江戸時代から作られている伏見人形にも動物をテーマとした、奇抜で面白いものや、擬人化したものなど、作者の卓抜な空想力と造形力による優れた作品が多くあります。

中国では、「羊」は漢字の形成の上でも、「羊」と「大」で「美」とし、「羊」と「我」で「義」としたように、親しく重要な存在であったようです。

「羊」は、もともと日本にいなかった動物だけに、郷土玩具の中では少ないものの一つです。伏見人形には、ゆったりと坐った型の「坐羊」のほか、玉を背に戴いた「玉羊」や「<sup>かひん毛</sup>祥羊」などが見られます。

当館蔵（京都文化博物館管理）<sup>ひつじ</sup> 脳 コレクションから

目次	伏見人形「未」 .....1	平成15年知事年頭あいさつ .....2
	文献課の窓から「水の文様」 .....3	寄贈資料紹介「千吉西村家文書」.....4
	歴史資料課の窓から「所蔵 写真 資料紹介」.....6	最近の収集資料から .....7
	收藏品展・府民講座のお知らせ、友の会事務局から 他 .....8	

## 平成15年知事年頭あいさつ



# 挑戦しなければ、前進はない

～ 明日の京都へ挑戦 ～

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

皆さまとともに新春を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

私は昨年、荒巻府政の継承と発展、そしてそのための府庁の改革を掲げ、第47代京都府知事に就任いたしました。その後直ちに、中小企業の方々をはじめ府民の皆さまの現下における厳しい状況に対応するため、雇用・不況対策や府民生活に重大な脅威を与えている産業廃棄物・不法投棄対策など緊急課題に積極的に取り組むとともに、当面する様々な課題に対処するため、雇用創出・就業支援や地球温暖化防止など、福祉・環境・教育・産業育成等について新しい施策づくりを進めてまいりました。

我が国の社会・経済情勢は依然として深刻な状況にあり、未だ曙光を見出せていません。それだけに、府民の皆さまの生活を守り、ともに歩む地方自治体の役割と責任が一層重さを増す中、私は皆さまの声や思いを大切に、開かれた透明な府政の推進に全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

そのために本年もまた一步、明日に向かって邁進することが必要です。京都縦貫自動車道綾部宮津道路の開通や京都第二外環状道路、第二京阪道路の整備など交通ネットワークがその姿を見せてきました。関西文化学術研究都市では、昨年の国立国会図書館関西館の開館に次いで、就業体験等の拠点となる「私のしごと館」が開館するなど、新たな発展段階を迎えようとしています。さらに3月には「第3回世界水フォーラム」が開催され、古くから水との関わりを大切に、水の文化を育んできたここ京都から水問題や環境問題解決へのアピールを世界に向けて力強く発信してまいります。

一方、昨年うれしいニュースもありました。京都の企業に在籍する田中耕一さんのノーベル化学賞受賞です。伝統に裏打ちされ、その上で進取の気風に富む京都の潜在力の大きさを目の当たりにし、私たちは大いなる勇気と将来への希望を与えられました。

私たちの京都は、丹後地域から相楽地域まで、自然、歴史、風土、伝統、文化、学術、産業など、日本や世界に発信できる「力」を示してまいりました。私は、さらにこの「力」と、それを支える人々をむすびあい、ともに豊かな伝統と文化の上に新たな時代の京都を創造し、アジアはもとより世界に発信していくことで、京都の未来は大きく拓けるものと確信いたしております。

私は「挑戦しなければ、前進はない」と思っております。今後も、皆さまとともに、躍動感あふれる明日の京都府づくりに邁進してまいりたい決意であります。

新年にあたり、皆さまの変わらぬご支援をお願いいたしますとともに、ご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

# 水の文様

本年3月、「第3回世界水フォーラム」が、京都を中心に滋賀、大阪を結んで開催されます。当館で2月22日から開催する「総合資料館 収蔵品展」をはじめ、フォーラムに向けて水に関する様々なイベントも行われ、水問題を考えるきっかけとなっています。

ここでは、美術工芸資料の中から、いくつかの「水の文様」についてご紹介しましょう。

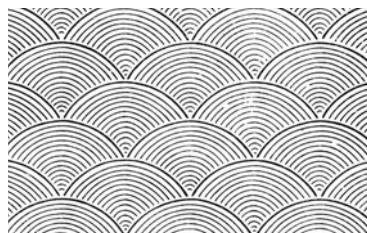
まず、京都と関わりの深い「観世水<sup>かんぜみず</sup>」という文様があります。能楽の観世流、観世家が創始した水の意匠化です。この文様は、「観世井」という井戸の水面にできる波紋によるといいます。井戸は、もと観世家の邸地、現在の京都市立西陣中央小学校の校地に隣接する「観世稲荷」の傍らにあります。



観世水

伝説によると、この井戸に空から竜が舞い降りて、その時水面にできた波形から渦巻き紋が生まれたといいます。観世流の決まり文様であったことから「観世水」の名があります。能装束に限らず、染織に多く使われ、四季の草花や水鳥などと組み合わせて用いられます。変わったところでは、京菓子の老舗がこの文様にちなんだ和菓子を作っています。

次に、同円又は大小の円弧を重ねて規則的に



青海波

に波形を表した文様に「青海波<sup>せいがいば</sup>」があります。この形象は、古くは埴輪の着衣にみられます。

「源氏中将は、青海波をぞ、舞ひたまひける。」『源氏物語』「紅葉賀」の巻には朱雀院の御賀に源氏中将が舞った「青海波」の様子が描かれています。青海波とは平安前期に作成された舞楽の曲名で、この文様は舞人の衣装にデザインされ、ここから転じたものといわれます。

半円を重ね無限に延長、拡大されるところからでしょうか、吉祥の文様としても好まれています。桃山時代の頃から能装束、陶器などに多く見受け

られ、江戸時代には染織、陶磁、漆工芸などに幅広く使用され、今日まで好まれる文様です。

最後に、「光琳文様」を見てみましょう。江戸時代に独特の文様の様式を創った尾形光琳(1658～1716年)は、「水の画家」とさえいわれるほど水・波の意匠を数多く描きました。

彼は、京の高級呉服商雁金屋の次男に生まれた京都人でした。絵画だけでなく、染織物、陶器、漆器など工芸デザインも手がけました。琳派の祖、本阿弥光悦や俵屋宗達の装飾性あふれる画風を受け継ぎつつ、より純化した、理性的で斬新な様式を確立し、その特色ある文様が一般に「光琳文様」といわれています。

水の文様に関しては、後世いわゆる「光琳波」といわれるほど変化に富んだ波形や流水を画題の



光琳大波

なかに描き込んでいます。家業であった呉服商に生まれたことで、幼い頃から衣裳文様の世界に馴染んだことが、衣裳図案の波形の端的なパターン化と、連鎖のリズム化に表れていると思われます。

また、光琳風の衣裳図案をまとめた雛形本や、光琳の絵画や工芸品を写した数々の図案集が出版されるほど、その意匠は後世にまで影響を与えています。

四方を海で囲まれ、また、多くの河川に恵まれ、古来から水稲農業を育んだ風土のなかで文化を形成してきた日本人が、水を意匠化し、美しく描いてきたことは自然への親近感の表れといえるでしょう。

以上、水にまつわる文様について述べてきましたが、2月からの収蔵品展では、所蔵資料のなかから他にも水に関連した様々な資料を展示します。是非ご覧ください。



酒井抱一編『光琳百図』から

## 寄贈資料紹介

# ち きち にし むら け もん じょ 千 吉 西 村 家 文 書

この度、京都市中京区の千吉西村家から、同家に伝来した古文書を、京都府の歴史研究のためにとご寄贈いただきましたので、ご紹介いたします。

### 千吉西村家

同家は寛文5(1665)年<sup>ころものなちよう</sup>に衣棚町(中京区三条通室町西入)に居を構え、<sup>ほうえ</sup>法衣商として始めました。屋号は「<sup>ちきりや</sup>千切屋」、当主の代々の通称は「<sup>きちうえもん</sup>吉右衛門」で、略して「千吉」を称しました。家業は僧侶の衣服である法衣仕立販売の他に、西陣織の販売、問屋、また金融業も営んでいました。近代になり法人に改組し、店と家(家政)が分離されましたが、家も店(千吉株式会社)も今日まで続いています。

なお同家は、本家千切屋と三右衛門家から分かれた家です。祖先は奈良に住み、工匠で朝廷に仕え、春日神社に祭事に用いる千切花を供進していましたが、平安遷都とともに京都に移住しました。その後、幾度かの戦乱を避けるため近江国甲賀郡西村に移り、そのため姓を「西村」としたと伝えられています。弘治(1555)年間頃京都に帰り、衣棚町で法衣商を営み始めます。本家は明治期に絶家となりましたが、同家をはじめ分家の千切屋治兵衛家(千治)、千切屋惣左衛門家(千総)の3家は、今日も京都の和装産業の老舗として営業されています。

### 文書の概要

文書の年代は、元和9(1623)年から昭和17(1942)年までの約320年間にわたっています。なお、文書の範囲を著作物まで広げると、年代は天文24(1555)年写の古今集写本から平成5(1993)年に刊行された同家の著作『<sup>らくし</sup>落暉』まで、約440年間にわたります。総点数は2,619点。文書は、図の同家の機構と関連先により作成、取得されたものと判断され、大きくは店、家、町の三つに分けることができます。

#### (1) 店関係(約1,000点)

江戸時代の営業部門は、和装関係(法衣仕立・販売と西陣織販売)、金融(利貸)、御用達(家業取引、利貸)があり、その事務とし

て、営業、経理が行われていました。業務に携わる人数は、正確には分かりませんが、当主、独立別家手代、通勤別家手代、手代、丁稚の人達、約25、6人でした。

**和装関係** 法衣仕立・販売については、宗派別に寸法、デザインが記された「宗派別法衣明細台帳」(写真1)等があります。なお法衣の

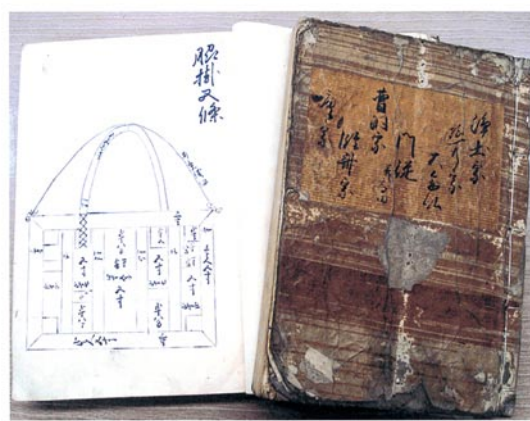


写真1 宗派別法衣明細台帳

仕立・販売は、昭和2(1927)年頃廃止されています。

西陣織の仕入価格については、同家が所属する春日講(本家、分家等で構成される千切屋一門の組織)と西陣の機屋の紗組及び仲買の今宮講との間で決定されていました。その関係で西陣織の仕入については、春日講の記録や、糸が高値になったので製品の値上を訴える紗組の安政6(1859)年の「口演書」(写真2)等がありま



写真2 口演書

す。また一門には、春日講に先立って結成された祇園講があります。これは一門の繁栄を目的に団結と西陣織の販売価格等の統制を行うものです。宝暦2(1752)年から文化8(1811)年までの取り決めなどが記された祇園講帳などがあります。

**金融関係** 大名等へ低利で貸し付け、堅実に回収する「利貸」が行われていました。寛文12(1672)

年に大名に利貸し、抹消の×印(回収された意味)の記事がある「年荷覚帳」(写真3)や借用証文などがあります。

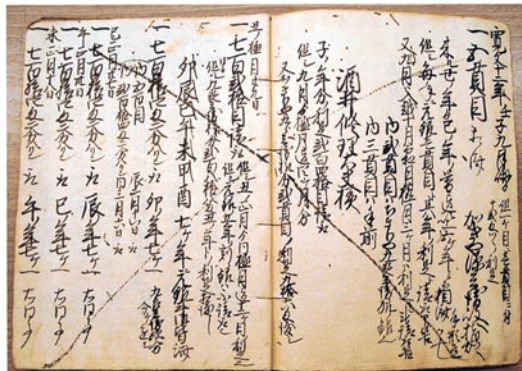
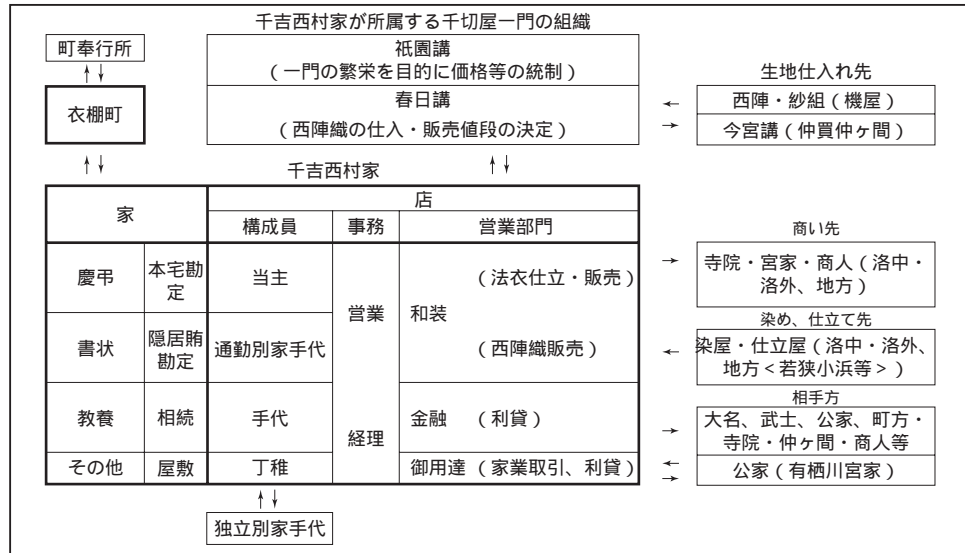


写真3 年荷覚帳

**御用達関係** 文化14(1817)年に有栖川宮家に御用達の取り立てを願った「乍恐奉願上口上書控」(写真4)や、同宮家の金融に携わった関係の文書などがあります。

その他、店に関しては、經理に関するものとして途中欠落はありますが、寛文12(1672)年から昭和8年(1933)年までの、勘定帳をはじめ近代の決算書まで多数のものがあります。構成員では、丁稚、手代等の奉公人請書、年季を勤め上げ、独立を許された別家へ主家から与えられる所帯道具一式の請取状などがあります。なお別家は独立して他業種についても、主家へ忠誠を誓い、主家経営の合議に加わっています。また主家からの恩愛は厚いものがありました。

## 千吉西村家の機構と関連先 - 江戸時代 -



\* 足立政男『老舗と家訓と家業経営』(広池学園事業部、昭和49年)と文書から構成



写真4 乍恐奉願上口上書控

### (2) 家関係(約1,300点)

譲状、系図、家屋敷の買得証文、図面、冠婚葬祭の記録、同家は越前の府中・福井・武生、山城の祝園等から養子を迎えているため遠方からの書状などがあります。

### (3) 衣櫛町関係(約300点)

明和2(1765)年の町衆を代表して將軍に拝謁する江戸年頭拝礼関係の文書、天保14(1843)年から明治20(1887)年にかけて当主が居町の年寄等を勤めたときの日記などがあります。

以上、店の文書を中心に紹介させていただきました。文書は組織の記憶ともいえますが、同家文書は同家の記憶のみならず、京都の伝統産業である西陣織等の和装産業の記憶、町の記憶といえます。今後、広く京都府の歴史研究に活用していただけるよう、さらに調査研究を行いますので、ご利用をお待ちします。

(歴史資料課古文書担当 山田洋一)

## 所蔵《写真》資料紹介

最近の科学技術の発展は目覚ましく、日々刻々と進歩しており、写真技術も例外ではありません。デジタルカメラや使い捨てカメラに携帯電話等、日常生活の中で写真を撮影したり、被写体になる機会が増大しています。このことは、写真の記録・資料性や芸術性などの特徴を万人が享有できる時代であることを意味します。誰もが後世に記録を残せる時代が到来しているのです。

しかし、今から140年程前までは誰もが気軽に写真を撮影することは出来ませんでした。文久2(1862)年に日本における職業写真家第一号といわれる上野彦馬が、日本における最初の営業写真館を長崎市に開設しました。写真館へは維新の志士といわれた坂本龍馬や中岡慎太郎、高杉晋作、伊藤博文、大隈重信などが撮影しに行ったと伝えられています。

その後、明治4(1871)年に浅沼藤吉が日本で最初の写真材料商を開業(関西では1875年京都の桑田正三郎が初)し、明治10(1877)年には日本で最初の写真雑誌といわれる「写真新誌」が深沢要橋によって発行されるなど、次第にカメラが一般民衆の中に浸透し、写真を研究する者が増加していきます。そして、明治22(1889)年に榎本武揚を会長とする日本最初のアマチュア写真団体「日本写真会」が結成され、毎月例会を開いて作品の研究が行われるようになりました。

丁度この頃、未だ写真が極めて貴重なものだった明治15年頃から昭和初期にかけて撮影された写真資料を、当館文書閲覧室で閲覧(縮小コピー版)することができます。閲覧に供しているのは約4,200点で、これらの写真の中には、写真が持つ記録・資料性や芸術性ゆえに、これまでに新聞、テレビ、雑誌等に掲載・放映されるなどした写真資料も数多くあります。

次に、これらの写真資料をご紹介します。

約半数は『黒川翠山くろがわすいざん撮影写真資料』です。この写真は、自らを芸術写真家と標榜した翠山が、明治末期から昭和初期にかけて撮影した写真で、昭和52年から公開しているものです。移り変わりの激しい現代社会にあって、当時の京



矢野家写真資料「四条大橋(明治)」

都の社寺、祭礼、風俗、町並などを物語る貴重な資料となっています。

次に点数の多いものは、『石井行昌いらいゆきまさ撮影写真資料』(寄託)で1,000点弱あります。公家の家柄であった行昌が、御所等への出勤の合間に、趣味として明治20年代から大正10年頃にかけて撮影した写真で、京都の風俗や建造物、交通機関あるいは年中行事、人物など、興味深い内容が多く、各方面から関心を集めてきました。

以上2件がこれまでも多くの方に利用されてきたものです。この外、次のような多様な写真資料があります。

まず『旧一号書庫写真資料』は、京都府が明治初期から大正初期にかけて撮影収集し、府庁舎一号館書庫に保管されていた写真で、官公署、学校、病院、交通、電気、農業、社寺等約800点に及びます。

次に『矢野家写真資料』は、矢野豊次郎が明治15年頃から、京都の風景、祭礼、風俗等を撮影した写真と収集したスチール写真で約260点あります。

『武部正「関東大震災」写真資料』は、黒川翠山が大震災の惨状を撮影した写真や、当時の新聞記事を張り合わせたアルバムの写真で35点あります。

『松尾健収集写真資料』は、明治後期から大正時代にかけて、京都のアマチュア写真家が撮影したスナップ写真で約160点あります。

以上が当館で閲覧できる写真資料です。写真資料の出版物への掲載等のご利用方法など、お気軽に歴史資料課までお尋ねください。

## 最近の収集資料から (平成14年 9月~11月)

### 図書資料

#### 京都

**古文書を読む** 京都造形芸術大学編 飛鳥企画  
2002 175p

**都の成立** 飛鳥京から平安京へ 門脇禎  
二・狩野久編 平凡社 2002 303p

**幕末京都の政局と朝廷** 上田休著 宮地正人編  
解説 名著刊行会 2002 417,19p

**京都学への招待** 京都造形芸術大学編 飛鳥企  
画 2002 191p

**目で見る向日・長岡京・大山崎の100年**  
向日市・長岡京市・大山崎町 同編集委員会編  
郷土出版社 2002 146p

**京大東洋学の百年** 砺波護・藤井譲治編 京都  
大学学術出版会 2002 9,296p

**石川丈山と誌仙堂** 山本四郎著刊 2002 460p  
寄贈

**京街道** 大阪・高麗橋~京都・伏見宿 上方史  
蹟散策の会編 向陽書房 2002 161p

**京都人文学園成立をめぐる戦中・戦後の文化運  
動** 山崎雅子著 風間書房 2002 329p 寄贈

**岩滝の大祭礼** 岩滝町大名行列の歴史と現況  
福持昌之編著 東條さやか執筆 岩滝町 2002  
211p 寄贈



**扇** 扇文化の成立と生産地としての京都 川嶋  
園子著 丸善大阪出版サービスセンター 2002  
191,7p 寄贈



**海を渡り世紀を超えた竹内栖鳳とその弟子たち**  
田中日佐夫・田中修二著 ロータスプラン  
2002 211p

**浮世京草子** 有馬敲著 澁標 2002 116p  
寄贈

### 人文

**大阪の博物館・美術館** 大阪21世紀協会文化部  
編刊 2002 249p

**奈良絵本** 上・下 糸井通浩責任編集 思文閣  
出版 2002 2冊 (竜谷大学善本叢書22)  
寄贈

**東大寺のすべて** 大仏開眼1250年 奈良国立博  
物館・東大寺編 朝日新聞社編刊 2002 374p  
寄贈

**横山大観** その心と芸術 東京国立博物館編  
朝日新聞社編刊 2002 113p 寄贈

**日本中世の禅宗と社会** 原田正俊著 吉川弘文  
館 1998 380,10p

**新体系日本史** 2・3・6・11・16 山川出版社  
2001~ 5冊 以後継続購入

**日本の時代史** 1~6 石上英一ほか編 吉川  
弘文館 2002 6冊 以後継続購入

**日本の中世** 1~5・7・11 網野善彦・石井進  
編 中央公論新社 2002 7冊 以後継続購入

**絵図と景観の近世** 水本邦彦著 校倉書房  
2002 360p

### 官庁

**全国町村会八十年史** 全国町村会編刊 2002  
21,962p 寄贈

**都道府県別将来推計人口** 平成14年3月推計  
国立社会保障・人口問題研究所編刊 2002  
355p 寄贈

**同和行政史** 同編集委員会編 総務省地域改善  
対策室 2002 981p 寄贈

**城陽市地域情報化計画** 城陽市編刊 2002  
2冊 寄贈

**福知山市国際化指針** 福知山市企画環境部編刊  
2002 38p 寄贈

**京田辺市地球温暖化対策実行計画書** 京田辺市  
経済環境部編刊 2002 40p 寄贈

**長岡京市交通バリアフリー基本構想** 長岡京市  
建設部編刊 2002 43p 寄贈

### 文書資料 (新しく公開する資料)

**千吉西村家文書** 京都市中京区の同家に伝来し  
た文書。主要な年代は、江戸時代中頃から戦前  
期。店(法衣仕立・販売、西陣織販売、利貸、  
御用達)、家、衣棚町関係の文書等、2,619点。  
寄贈

## 総合資料館 収蔵品展

3月16日～23日に開催される「第3回世界水フォーラム」の協賛事業として、「水」に関する当館所蔵資料を展示します。

会期 平成15年2月22日(土)～3月23日(日)

(3月12日(水) 21日(祝)は休館)

午前9時～午後4時30分

会場 当館2階展示室(入場無料)



World Water Council  
3rd World Water Forum

みんなで考えましょう。京都から世界の水のこと  
**第3回世界水フォーラム**  
2003.3.16～23 京都を中心に滋賀・大阪を結んで開催

## 府民講座のご案内

平成15年3月14日(金) 午後2時～

「水を描く」

上村淳之氏(日本画家・京都市立芸術大学副学長)

受講ご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を明記し、3日前までに、FAX(075-791-9466)又ははがきでお申し込みください。満席で受講をお断りする場合のみ連絡します。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4  
京都府立総合資料館 庶務課

## 友の会事務局から

平成14年度の見学会を10月31日、11月1日の両日、173人の会員の皆さんの参加を得て、宇治田原町の禅定寺、滋賀県石部町の常楽寺で実施しました。



常楽寺

## 「友の会」会員募集

京都府立総合資料館友の会では、平成15年度の会員を次のとおり募集します。

会費 年額 2,000円(4月～翌年3月)

申込方法 所定の申込用紙兼払込取扱票に必要事項を記入の上、会費を郵便局に払い込んでください。

受付期間 1月10日(金)～2月28日(金)

詳しくは友の会事務局(総合資料館1階 庶務課内 TEL 075-723-4831)までお尋ねください。

## 古文書相談のご案内

古文書の内容や解読についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問合せください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

## 北山磨丸太製「飾り棚」寄贈



12月17日、社団法人京都府木材組合連合会から、北山杉の磨丸太を使った飾り棚が寄贈されました。3階の図書閲覧室前に展示してありますので、お越しの際はご覧ください。

日誌 平成14年9月～11月)

- 9.26(木) 府民講座(第4回)開催
- 10.4(金) 重要文化財指定記念・京都府行～31(木) 政文書展開催
- 10.22(火) 府民講座(第5回)開催
- 10.22(火) 収蔵展示室の一般公開～24(木)
- 11.9(土) 第18回東寺百合文書展開催～12.8(日)
- 11.12(火) 第157回古文書相談開催
- 11.21(木) 府民講座(第6回)開催
- 11.26(火) 第1回古文書解読講座(初心者A～29(金)コース)開催

## 利用案内

休館日 祝日(日曜日の場合は、その翌日)、毎月第2水曜日、資料整理期(春季)、年末年始(12月28日～1月4日)

【1月～3月の休館日】

1月1日(水)～1月4日(土) 1月8日(水)  
1月13日(祝) 2月11日(祝) 2月12日(水)  
3月12日(水) 3月21日(祝)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車  
市バス、(北8)北山駅前下車  
京都バス28、45、46 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4

TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています